

## ▶13日 金曜

ピリピ



2:1 ですから、キリストにあって励ましが  
あり、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、  
愛情とあわれみがあるなら、

2:2 あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の  
心を持ち、心を合わせ、思いを一つにして、  
私の喜びを満たしてください。

2:3 何事も利己的な思いや虚栄からするの  
ではなく、へりくだって、互いに人を自分より  
すぐれた者と思いなさい。

2:4 それぞれ、自分のことだけでなく、ほか  
の人のことも顧みなさい。

2:5 キリスト・イエスのうちにあるこの思い  
を、あなたがたの間でも抱きなさい。

2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、  
神としてのあり方を捨てられないとは考えず、

2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、  
人間と同じようになられました。人としての  
姿をもって現れ、

2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字  
架の死にまで従われました。

2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、す  
べての名にまさる名を与えられました。

2:10 それは、イエスの名によって、天にある  
もの、地にあるもの、地の下にあるもののす  
べてが膝をかがめ、

2:11 すべての舌が「イエス・キリストは主で  
す」と告白して、父なる神に栄光を帰するた  
めです。

パウロは教会の交わりについて言及します。一番  
大切なことは、「互いに人を自分よりすぐれた者  
と思う」ことです。この姿勢があれば、兄弟姉妹を  
尊重するでしょう。考えや感じ方が違って、自分  
の主張を押し通すことはありません。ですから一致

が生まれ、愛が生まれ、美しい交わりが生まれま  
す。

その模範はイエス・キリストです。主イエスの  
へりくだりを思うなら、私たちはどこまでも謙遜  
になることができるものです。ですから”自分こ  
そ信仰深くて正しい”という姿勢の人は、イエス  
様に近いと勘違いしつつ遠くなくなってしまっている  
のです。

クリスチャンには聖霊が働いており、ただだ  
れにでも主のみこころが働いています。この聖霊に  
よって相手を尊重できるのです。決して自分の方  
がわかっている、正しいなどと思い込むことのな  
いようにしましょう。それは聖霊と交わっていない  
証拠です。相手のうちに主のみこころを見出す  
訓練をしましょう。心がけていくことも大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど  
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

